

鏡川流域パートナーシップだより No.174 R6.8.26



新エネルギー・環境政策課では、高知市の清潔なまちのシンボルである鏡川の美しい景観や自然環境を保全するため、鏡川流域の自然と人、人と人との関わりとつながり(鏡川流域パートナーシップ)の拡大を目指しています。「鏡川流域パートナーシップだより」では、鏡川流域パートナーシップ推進に向けたさまざまな取組を楽しく紹介します！

「Feel度 Walk×Biome in 鏡川ど上流」開催～鏡川上流域を散策編～

8月19日(月)、鏡川流域関係人口講座3期生の藤澤佑介さん(土佐塾中学・高校英語教諭)が、鏡川上流域・鏡吉原にて、「Feel度 Walk×Biome in 鏡川ど上流」を開催しました！

Feel度 Walk：地域を歩いて気になったものを撮影し、参加者同士でスケッチして共有することで、観察力などの感度(Feel度)を高める効果が期待されている活動



藤澤さんは、これまで、土佐山地域、日曜市、高知市鏡庁舎付近で「Feel度 Walk」を開催してきました。今回は、高知市内や東京都などから参加者が集まり、総勢14名で鏡川上流域を散策しました。また、スマホアプリ「Biome」を活用して動植物を調査し、「鏡川流域いきもの図鑑をつくろう2024」のクエストにも挑戦しました！



① 鏡川に関する情報発信などを行う鏡川流域関係人口講座1期生「カワマミコ」さんもゲストとして参加！

② 鏡吉原ふれあいの里に集合したあと、自然豊かな鏡吉原を散策しました。



③ 日本農業新聞の記者・溝口恵子さん。全国の関係人口の取組取材しており、鏡川流域関係人口創出事業に興味を持ったことから、今回のイベントに参加しました。



④ 下流域では見かけない植物や木々に興味が膨らみます！木に開いた大きな穴を見ていると吸い込まれそうです。



⑤ 本課に研修に来てくれたインターンシップ生・小松朱音さん(龍馬情報ビジネス&フード専門学校公務員学科1年)は、参加者に「Biome」の操作方法を尋ねられ、丁寧に答えていました！



⑥ 藤澤さんからコメントをいただきました！

今回はあいにくの雨となりましたが、だからこそ見えたものがありました。道に現れる水の道。降った雨はどこかの川に注がれるという流域の考え方が、まさに目の前に現れた瞬間でした。回を重ねるごとに、川の見方が深められていくのを感じます。上から目線ではなく、横から目線で、一緒に何かを面白いという視点は関係性を豊かにすると感じます。



⑦ 参加者のうち、講座1期生は2名、2期生は1名、3期生は2名。受講生同士で会話をしながら、鏡吉原の風景や動植物に触れ、気になったものを写真に収めていました。



次号では、散策後のスケッチ作成の様子などを紹介します！



鏡川流域関係人口のつながりを可視化し、循環を促進するために、スマホアプリ「まちのコイン」を導入しました。高知市のコイン名称は「ぼっちり」です。鏡川がつなぐ山、川、海、人のたくさんの「ちょうどいい」関わりを未来へと繋いでいきたいという意味が込められています。ユーザー、スポット募集中です！

※「ぼっちり」の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://cms4.city.kochi.kochi.jp/soshiki/186/machinocoin.html>

「まちのコイン」のインストール



iPhone

Android